

松江宣言

（前文）

国際特別都市建設連盟は、終戦直後に、それぞれの都市が有する資源等に照らして、「国際文化の向上」「世界恒久平和の理想」「経済復興への寄与」「外客の誘致・定住」を掲げた加盟都市からなる。戦後 80 年の節目である 2025 年に、加盟都市の更なる発展を図るという本連盟の目的を、現代社会における課題に照らして再確認する。

本連盟に関連する法律の制定が進んだ約 75 年前、加盟都市が焼け野原から立ち上がるために選んだのは、国際的な交流を開ざすことではなく、世界に「開き、学び、共に創る」ための道程だった。私たちは、先人からその意思を受け継いでいる。

私たち首長は、大切な住民を誰ひとり取り残さない。だからこそ、排外主義には与しない。分断のリスクが懸念される時代だからこそ、本連盟の構成都市は、平和を守る責任を果たさねばならない。

本年開催された大阪・関西万博では、世界 158 の国・地域と国際機関が集った。その経験を通じて、私たちは改めて、対話により各々の「違い」と「共通点」を理解できることを認識した。

相互の尊重と信頼に基づく交流こそが、暮らしの安定と持続可能な繁栄の土台となる。

日本の伝統は、異なる価値を受け止め、ときにそれらとの融合を経て、紡がれ磨かれてきた。

私たちは、長期的な視座から学びを得て、本連盟に加盟する都市が連携して世界と協調することにより、日本の発展を牽引する主体であり続けることをここに宣言する。

（宣言）

1. 相互尊重と対話

分断のリスクが懸念される状況にあっても、対話を通じた相互理解は不可欠である。

誰一人取り残さない社会を目指す姿勢を貫き、互いを尊重し耳を傾けることが信頼を築く第一歩である。

私たち首長は、すべての住民の意思を尊重し、生活を支える使命を果たす。同時に、異なる文化や考えを認め受け容れる姿勢が、相互の理解を深める基盤となることを認識する。

その理解が得難い状況に直面しても、諦めるのではなく乗り越えようとする姿勢が重要であり、ときに長期的な時間軸をもって、対話を積み重ねていく。

2. 若者による異文化の理解と学び、創造

世界との交流を通じて異なる文化から学び、その学びを基にして共に創造を重ねることは、やがて新たな文化を築く。

特に、未来を担う若者においては、多様な文化を理解し、自分なりの解釈を加えて発信する力が、大切になると私たちは考える。積極的に異なる文化や世界と交流し、学びを深めることを推奨する。

激動する社会から学び続ける姿勢は、未来を切り拓く力となる。

3. 連携による国際交流の推進

本連盟には、戦後の復興期から続いてきた、加盟都市における連携・交流の歴史がある。

特に、他国の都市との交流は、国を超えた相互の信頼と尊敬を育む重要な基盤になる。また、私たちが来訪者に示すホスピタリティも、互いを尊重し、対話を重ね、異なる文化を受け容れて共創する、国際交流の一環である。

国際交流は、自分たちの文化や価値観を発信し、違いを発展的に認め合うとともに、自分たちのまちの魅力を再発見し向上する取組でもある。

国際特別都市建設連盟は、今後も、我が国の国際交流の大きな推進力となるよう連携する。

令和7年11月27日

国際特別都市建設連盟